



光本 一也 議員

Q 熊野町のすべての小中学生に
温かい学校給食を

A 町長

令和7年の秋を目標に、温かい食缶給食を開始したい。

【Q1】

温かい学校給食の導入に向け、どのように研究し、どのような結論を出したのか。

【A1】

昨年11月にアンケート調査、本年9月にサウンディング調査を行い、給食の提供方式、事業費、移行スケジュール等を整理している。

【Q2】

アンケート調査の内容と結果は。

【A2】

小中学校6校の保護者1,374人を対象に実施した。回答率73.7%。

約8割の方が「食缶方式による全員給食がよい」との結果であった。

【Q3】

サウンディング調査に参加した事業者の状況は。

【A3】

センター方式4者、民間調理場活用(民間デリバリー)方式2者の事業提案を受け協議した。

【Q4】

少子化により児童・生徒数が減少する中で、施設整備費、人件費等の経費が大きく、開始まで長い期間を要する自校方式やセンター方式よりも、施設整備費が不要又は低額で、短期間で開始できる民間デリバリー方式が良いと考えるが、教育長の考えは。

【A4】

費用面等を考慮すると、民間デリバリー方式による食缶給食が適当と考えている。



▲食缶給食(イメージ)



竹爪 憲吾 議員

Q ご当地ナンバープレートの計画は

A 住民生活部長

100周年記念事業で計画はあったが、見送られた。今後、効果を研究したい。

【Q1】

本町の原付バイクの登録台数と税収は。

【A1】

11月末現在で、1,801台登録され、年間約210台程度の新規ナンバーを貸与している。税収は約380万円である。

【Q2】

県内で、多くの市町が導入しているご当地ナンバープレートを、走る広告塔として町のPRに活用してはどうか。その計画はあるのか。

【A2】

ご当地ナンバープレートの制作は、町政施行100周年記念事業において、案にはあったが見送った経緯がある。

【Q3】

今後、導入した際には、新しいナンバープ

レートは全てに交付するのか。

【A3】

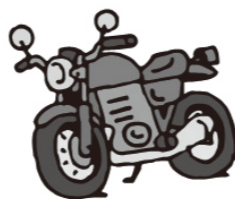
現在導入している自治体では選択制としている所が多く、本町においても希望者に交付したいと考える。

【Q4】

ご当地ナンバープレートを利用して、観光に繋げていけるのではないかとと思うが。

【A4】

観光資源などを図柄にすることで、本町に興味を持っていただいたり、地域の魅力を発信するツールとしても有効であると考えられるので、効果について研究したい。



Q 単身高齢者への終活支援を

A 健康福祉部長

エンディングノートなどの活用に取り組んでいく。



沖田 ゆかり 議員

【Q1】

単身高齢者数の推移は。

【A1】

平成17年度は739名、令和2年度は1,458名で約2倍になっている。

【Q2】

親族が見つからず直葬したケースは。

【A2】

平成23年度以降で30件あった。

【Q3】

直葬した場合の費用は。

【A3】

平均で、約25万円である。

【Q4】

横須賀市では身寄りのない低所得の単身高齢者を対象とした「エンディングプラン・サ

ポート事業」として、市の協力葬儀社と生前契約して費用を預け、亡くなった後は市と協力葬儀社が連携して葬儀や納骨を行っている。今後、増加することが懸念されるため、熊野町でも取り組んでいただきたいが。

【A4】

今後、町内業者に期待したい。



▲エンディングノート

Q 視覚障がい者や外国人への情報支援を

A 住民生活部長

窓口事務については対応できている。郵便物に関しては検討していく。

【Q1】

昨年、視覚障がい者の方で戸別受信機を設置している人数を聞いたが把握できていないとの答弁だった。現在は把握しているのか。

【A1】

把握できていない。

【Q2】

ハザードマップについては、視覚障がい者に確認することは難しく、危険な場所も避難ルートも分からないため、音声コードを利用した「耳で聴くハザードマップ」を導入していただきたい。

また、外国人に対しても、音声コードが多言語化されているので導入していただきたいが。

【A2】

音声コードについては、初めて聞くため、

研究していく。



▲スマホアプリ Uni-Voice Blind

【Q3】

ゴミステーションに、外国人にも分かるよう多言語で、ごみの分別や収集日について表示していただきたいが。

【A3】

ごみの出し方についての一覧表に、4か国語を掲載しようと考えている。